

令和5年6月16日

梅雨時期の高温に対する技術対策について

農業総合センター
専門技術指導員室

●気象情報

高温に関する早期天候情報(2023年6月15日14時30分気象庁発表)によると、関東甲信地方では、6月21日頃からかなりの高温となる見込みです。気温の変動が大きくなりますので、農作物の管理等に注意するとともに熱中症の危険性が高まりますので、農作業時の健康管理に注意してください。

●対策技術

I 共通事項

- ・高温が続くことにより、農作物の生育が早まることが予想される場合は、作業計画の見直しや肥料・農薬等資材の確保に留意する。また、県病虫害防除所の病虫害発生予察情報の収集に努める。
- ・熱中症対策として、高温下での長時間作業を避け、水分補給と休憩を取るよう心がける。

II 野菜

(1) 全般

- ・かん水は、時間帯に注意し、特に高温が予報される日は早朝・夕方に実施し、必要に応じて1日当たりのかん水回数を増やす。
- ・地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、適宜、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。
- ・施設栽培では、妻面・側面・天窓の開放や、循環扇の利用により、通気性を確保するとともに、遮光資材等を使用して施設内の温度上昇を抑制し、適切な温度と湿度の管理に努める。

※循環扇は、局所的な高湿空気の滞留を防ぐとともに、施設内温度の均一化に効果的である。夜間や曇雨天時等の高湿度条件下では、循環扇を使用するなどして湿度を下げる。

※曇天後に、急に晴れて高温強日射にさらされると激しいしおれを起こすことがあるので、速やかに遮光を行えるように準備しておく。

- ・こまめな除草や側枝、弱小枝及び下葉を除去し、風通しを良くする。
- ・苗床では、コンテナなどによる育苗箱のかさ上げや苗の間隔を十分に広げるなど、風通しを良くする。
- ・軟弱に生育している作物は薬害を生じやすいので、薬剤散布を行う際は使用基準の範囲内で散布濃度を低めにする。

（２）葉茎菜類

- ・乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。
- ・特にねぎでは、過湿と高温により白絹病・軟腐病発生リスクが高くなるため、ほ場の排水に努める。

（３）果菜類

- ・しおれ予防のため、こまめにかん水を行う。
- ・不良果の摘果、早めの収穫により着果負担の軽減を図るとともに、適切なかん水・施肥により樹勢維持に努める。
- ・老化葉、黄色葉を中心に適切に摘葉し、水分の過剰な蒸散や呼吸の抑制に努める。
- ・カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

Ⅲ 果樹

ブドウ

- ・果粒軟化期（ベレーゾン期）前の果房は、日やけ症、縮果症などの生理障害が発生しやすいので果房に傘かけ（紙製の傘）を行う。
- ・根域が浅いので、株元の根域への少量・多回数のかん水が有効である。晴れた日は、午前中に毎日かん水すると良い。
- ・ほ場の夜温を下げるため、夕方の散水も有効である。ただし、過散水は多湿となり病害発生を助長するので注意する。

Ⅳ 花き

- ・切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。
- ・エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し、品質の維持に努める。
- ・施設栽培の花きについては、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、遮光資材等を使用する。細霧冷房装置や換気装置の使用により適切な温度及び湿度の管理に努める。